

第1回ジオパーク下仁田協議会教育部会報告

日時：令和3年9月28日（火）午後3時30分～4時30分

場所：下仁田町自然史館 ミーティングルーム

東京在住の保科部会長はオンラインで参加

所 属	氏 名	出欠	所 属	氏 名	出欠
下仁田自然学校	保 科 裕	出	下仁田ジオパークの会	高橋真理子	出
群馬県立下仁田高等学校	島田 具広	出	公民館係長	並木 将貴	出
群馬県立下仁田高等学校	徳田 竜磨	出	下仁田町自然史館	赤 岡 明	出
下仁田小学校	小金澤俊郎	出	下仁田町自然史館	関谷 友彦	出
下仁田中学校	榊原 秀幸	出			

1 開 会 赤岡課長補佐

2 協議事項 赤岡課長補佐

① 下仁田ジオパーク 再認定審査（案）について

資料.1に基づき、11月に行われるジオパーク再認定審査行程案について説明しました。

- ・保科部会長より、再認定審査2日19時からの意見交換（常盤館）は、審査員と個々に意見交換等しているの必要ないのではないか。と意見をいただきました。その後、事務局の意見を伝えるところ、保科部会長から意見交換（常盤館）に参加したい。と連絡をもらいました。

② 下仁田ジオパーク アクションプラン（2022～2026）（案）について

資料.2に基づき ジオパークアクションプランの教育活動の3つの方針についてそれぞれ下記のとおり協議しました

1 学校教育を通じた活動について

- ・教育部会として、高校教育に従来の下仁田学習を発展させたことが分かる文面にした方がよいのではないか。
- ・この活動はどこが主体となってやるものなのかが、分からない。またその時々学校の状況に応じて実施の可否が変わるので、教育部会として全体の活動を各団体に呼びかける（薦める）という風に記述してはどうか。
- ・「ジオパーク間の交流の場の創出」と「学習発表の場の創出」は具体的に何が違うのかまとめた方がよいのではないか。

⇒学習発表は子どもたちが学んだ内容を自分たちの言葉で表現し、地域の人たちに発表する（授業参観での発表やチラシ作りなど 方法はそれぞれ）、に対しジオパーク間の交流は、地域の事を自分たちの言葉で話せるようになった各ジオパークの子どもたちが交流し、同じ自然環境でも異なる文化が形成されているということ、下仁田の子どもたちに知ってもらい幅広い見聞を得る交流なので、趣旨が異なるため別としたい。

2 地域住民向けの学習活動

- ・教育部会として、社会教育に従来の下仁田学習を発展させたことが分かる文面にした方がよい。
- ・住民総ジオガイドとはどういう意味か。

⇒全員が有料のジオガイドというものではなく、地域に住んでいる人たちが地域の事を自分たちの言葉で話せるようになり、来訪者に地域を伝え（道案内なども複）地域一丸となったおもてなしをすること。

3 広域的な学習活動

- ・コロナ収束後の課題の書き方については工夫した方がよい。
- ・教育旅行の受け入れをして、ジオパークをPRするという受け身の姿勢よりジオパークのPRをすることによって教育旅行利用者を広げるという表現にしてはどうか。
- ・教育旅行のモデル作りは、教育旅行利用が増えるような「魅力的な」モデル作りを行うようにしてはどうか。

⇒以上の意見を踏まえて、校正したものを書面で部会員に再配布し、さらに意見等あれば事務局で修正し、再度、教育部会案として協議会に提出することになりました。

③ 下仁田ジオパーク テーマ・ストーリー（案）について

資料. 3に基づき リーフレットジオパークアクションプランの教育活動の3つの方針について報告しました。

3 次回の部会開催について

再認定審査が終わった後の11月中下旬に調査員との意見交換も踏まえて今後の教育部会の活動について検討する。